

2026年度 看護職員の負担の軽減及び処遇の改善・業務分担計画

目的:①多職種又は他部門と連携により看護業務の効率化を図る

②タスクシフトを考え、業務改善を行い看護職と多職種双方の負担軽減を図る

③働きやすい職場環境づくりを目指し、多様な勤務形態導入や適正人員配置を行なう

④スマートベッドシステム導入による患者情報の可視化、患者分析などを活用し最適なケアの実現

	部門	2026年度業務分担・改善計画	最終評価日(2027年3月)	主な評価指標
他職種との連携・役割分担	看護補助者 ナースエイド	<ul style="list-style-type: none"> 看護補助者の教育研修実施(年間計画に基づく) 実践研修(緊急時の対応・窒息予防実施)による現場対応力の向上 研修参加率目標:病棟部門100%、 夜間看護補助者の確保(目標50:1)一維持 地域包括病棟(看護補助充実体制加算)一維持 業務マニュアルの作成・改訂 看護補助者に、高齢者や認知症に関する看護師からの指導・e-ラーニングの導入・院内研修の実施を行い、入院生活や身体の世話等の業務について、看護師との協働体制作りを行う 入院時オリエンテーション・スマートベッドシステムへのアクセス件数増 病棟間連携業務の構築 看護師の事務作業の業務量削減 入院時カルテ整理や医事算定漏れのチェック 物品、材料等の定数見直し 電話、ナースコール、面会者等の対応 看護師による説明・指導等の業務移譲(タスクシフト) スマートベッドシステム導入、ベッドサイドでの患者情報の共有に伴う業務の効率化 		<ul style="list-style-type: none"> 看護補助者、ナースエイドの人員配置 実践研修参加人数 夜勤可能な看護補助者の確保 補助者、ナースエイド会議の開催 業務改善への提案 処遇の見直し、提案 委託業務見直し 入院時オリエンテーション説明件数 スマートベッドシステムによる情報共有・患者情報共有・転倒転落率の変化
	検査科	<ul style="list-style-type: none"> 採血待ち時間の短縮の応援体制の構築 患者誤人や・人為的ミス防止のシステム導入 院内検査マニュアル作成・改訂 PA検体採取時の選番配置 		<ul style="list-style-type: none"> システム整備、フローの周知 待ち時間調査と対策
	栄養科	<ul style="list-style-type: none"> 入院患者①必要栄養量の算出、病院食の制限内容の提案②経腸栄養剤の種類と栄養量の提案③食事摂取量に合わせて栄養補助食品等の提案④NST回診による提案内容の報告と、それに合わせたプラン作成・提案⑤栄養指導に必要な患者の抽出、指導依頼 入院患者栄養評価・栄養指導など栄養管理体制基準の明確化 外来栄養指導依頼後、継続指導の実施 		<ul style="list-style-type: none"> カンファレンス参加状況 入院前支援フロー 栄養指導件数 NSTラウンド GLIM評価・リハ総合実施計画書・カンファレンスへの参画
	臨床工学科	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器のトラブル対応及び安全使用のための研修開催 医療機器の勉強会実施(看護部と協働実施) 貸借システムの定着による時間短縮・スマート化 透析室業務拡大(穿刺) 		<ul style="list-style-type: none"> 医療機器トラブル状況 インシデント報告 勉強会開催件数 貸借件数
	医事課	<ul style="list-style-type: none"> 収支報告の継続 新規加算取得への取り組み 加算取得状況の関係部署への報告・改善提案 診療報酬改定に伴う加算の提案 新規加算取得にむけ、看護部との連携・構築提案 		<ul style="list-style-type: none"> 加算取得データ 勉強会開催件数 看護必要度Ⅱの3ヶ月推移
	診療情報管理室	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録監査の実施と改善 文書類の記載漏れチェック 紙カルテから電子カルテに向けて書類見直し 記録監査等について報告継続 		<ul style="list-style-type: none"> 監査結果 記載漏れ、未来記録への取り組み(システム構築)
	システム課	<ul style="list-style-type: none"> 看護記録の効率化に向けてのシステム改善 HRジョイントの導入(血糖測定・バイタル測定の自動入力) オンライン診療の確率 看護関連加算のデータ抽出 スマートベッドシステムの導入 		<ul style="list-style-type: none"> 記録時間による超勤削減 情報の共有化と迅速対応 スマートベッドシステムによる患者状態の把握(眠りスキャンの活用)
	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 院内掲示物の管理(定期ラウンドの実施) 患者満足度調査の実施 患者意見のフィードバック継続実施と改善 リネンの運搬・補充など外部対応へ介入 CSセット導入 		<ul style="list-style-type: none"> 基準の見直し 改善活動 タイムカードリーダーの新規設置
	資材課	<ul style="list-style-type: none"> 物流システムによる物品請求、払い出しの効率化 部署ごとの医療材料費、消耗品の使用状況のデータ提示 在庫管理とコスト削減への改善活動 SPDシステムによる業務効率化と定数管理適正化 		<ul style="list-style-type: none"> 適正在庫のための定数調整 SPDの適正化
	薬剤科	<ul style="list-style-type: none"> 入院 処方薬の重複、相互作用、併用禁忌チェック(持参薬も含む) 検査値からの用法用量チェック 処方継続チェック(急性期) 持参薬から院内処方へ変更時の処方提案 内服インシデント事例に対する介入、情報共有・改善策の提案 外来・入院 自己注射の患者指導 		<ul style="list-style-type: none"> 看護必要度 薬剤に関するインシデントのデータ 薬剤に関する勉強会実施状況 部署担当薬剤師の役割の明確化、相談体制
リハビリテーション科	<ul style="list-style-type: none"> クリニカルパスのリハ介入・連携の強化(退院支援) 身体抑制中患者の評価実施(医師・看護師と3者評価) 身体拘束最小化チームの作成、稼働 リハビリ・栄養・口腔連携体制加算の取得に向けての取り組み 職員の腰痛予防取り組みにて移乗介助、腰痛予防勉強会開催 リハスタッフも患者情報(ADL)入力を行い業務分担、最新情報を更新(スマートベッドシステム) 		<ul style="list-style-type: none"> リハカンファレンス開催状況 看護必要度評価 身体拘束実施状況の変化 スマートベッドシステムを多職種で活用、ADL項目の評価更新状況 	
	項目	具体的計画	最終評価日(令和7年3月)	
看護職員負担軽減・処遇改善	多様な勤務形態の導入	<ol style="list-style-type: none"> 日勤帯への短時間勤務者の配置 業務別短時間勤務者の配置の検討 日勤者休憩時間帯の勤務者確保 障害者雇用の推進(業務内容の検討) 看護補助者の拡充によるタスクシフトの実現 特定技能実習生の定期採用による人材確保(看護補助者) 診療報酬改定に伴う処遇改善、給与アップ 		<ul style="list-style-type: none"> 各部署適正人数配置 勤務形態の種類 特定技能実習生採用計画 処遇改善の実績
	妊娠、子育て中の看護職員への配慮	<ol style="list-style-type: none"> 育休明け面談による配置決定 夜勤可能を確認の上、希望曜日の配慮と夜勤時間短縮 未就学については育児時短勤務制度、子の看護休暇の無休での取得 早期復帰希望者への院内保育所への優先入所 妊娠中の看護師への業務量の配慮、連続勤務の軽減 産後パパ育休の取得 		<ul style="list-style-type: none"> 育休明け人数、面談件数 育児時短勤務制度利用者数 院内保育所への入所件数 産後パパ育休所得人数
	夜勤者の負担の軽減	<ol style="list-style-type: none"> 休憩、仮眠時間の確保(2時間) 看護補助夜勤者の配置 看護師の夜勤回数の設定 月の上限144時間以内、平均72時間以内 夜勤翌日の休日確保。月に一回以上の連休取得 病棟機能に応じた入院患者の適正入院(特定入院料の病棟) 		<ul style="list-style-type: none"> 無休憩・無仮眠時間の算出 夜勤可能な看護補助者数、部署配置数 夜勤時間平均(72時間以内):一般病棟 休日、年休取得率
	看護職員の勤務時間の把握と労基法に基づく労務管理	<ol style="list-style-type: none"> 師長会での看護職員の毎月の超勤時間の情報共有(超勤削減目標設定) 超勤削減への改善活動 勤怠管理の徹底、始業前サービス残業廃止検討 看護職欠員時の補充 院内応援体制 定期ローテーション 採用活動 夜勤帯業務負担のための基準の運用 管理日誌から各部署の業務量把握する仕組みを活用 重症度・看護必要度の推移 委員会・部署会議の時間内開催推進 前残業時間の短縮のための取り組み継続(始業開始8:45) 年休取得を促し働き続けられる職場環境の提供 		<ul style="list-style-type: none"> 残業時間数 採用活動(各種学校、新聞社、マイナビ) 施設見学実施、人数 病棟重症度や繁忙状況の可視化 年休取得率